

**令和 5 年度
うめわか高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室
事業計画**

第 8 期最終目標

目指すべき将来像 「みんなでつくる『おたがいさま』の うめわか地域」

うめわか地域では、介護予防・認知症予防に地域全体で取り組み、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、活躍できる地域を目指す。

病気があっても、障害があっても、認知症があっても、住み慣れた地域で自分らしく年を重ねられるよう、医療・介護・福祉の関係機関や地域の関係団体等が連携し、ネットワークを築いていく。

子どもから高齢者まで、多世代を通じて、『おたがいさま』の気持ちで支え合ううめわか地域をつくっていく。

人口	高齢者人口	高齢化率	後期高齢者人口	高齢者人口に対する 後期高齢者人口
28,349 人	8,037 人	28.4%	4,616 人	57.4%

5 年度の到達点

○地域での様々な関連機関とのネットワークが拡充することで、支援を必要とする高齢者を早期に見だし、適切な医療や介護サービス、地域資源につながっている。

○フレイル予防の柱である、栄養（食事）、口腔ケア、社会交流、運動に関して普及啓発が進むことで、介護予防につながり、元気な高齢者が増えている。

○身近な地域や、コロナ禍でも活動しやすい屋外に通いの場が増え、住民同士のちょっとした支援や生活の便利情報をリーフレットとして可視化することで、フレイル予防や地域の支え合いの仕組みづくりが進んでいる。

<全センター・相談室共通業務>

1 総合相談支援

5 年度の 取組の視点	<p>○コロナ禍で総合相談件数が増えているため、早期発見・早期対応を行い、保健・医療・福祉サービス等適切な支援につなげる。</p> <p>○安否確認について、区民、関係機関等から高齢者の異変に係る相談・通報があった場合は、「緊急安否確認チェックシート」を活用し、速やかに状況把握、対応をする。</p> <p>○介護保険の相談時、介護予防の視点から、必要に応じて基本チェックリストを実施する。</p> <p>○医療・介護・福祉関連機関や民生委員・児童委員、ボランティア等、地域での様々な関係者とのネットワークを拡充する。</p>	
結果	新規相談件数 ○件（前年度 ○件）	継続相談件数 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

2 権利擁護

5年度の取組の視点	<p>○高齢者虐待ハイリスク世帯の早期発見、虐待の芽の段階での気づきの視点に留意し、相談支援を行う。発見後は、関係機関と連携し、緊急性を逃さず迅速に対応する。</p> <p>○高齢者虐待の防止において、積極的に関係機関への研修等による普及啓発およびネットワーク構築をすすめ、早期段階での通報・支援につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所や関係機関向けに、権利擁護に関する勉強会・研修を年4回開催する。 <p>○消費者被害防止のため、地域住民に対する普及啓発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民向け消費者被害および特殊詐欺被害防止の講座を年4回開催する。 ・ 広報誌にて掲載する。 	
結果	虐待防止ネットワーク（研修、講座等） ○件 （前年度 ○件）	権利擁護相談（虐待相談含む）件数 ○件 （前年度 ○件）
次年度以降の取組の方向性		

3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

5年度の取組の視点	<p>○医療・介護・福祉関連機関等との連携体制を構築し、地域のケアマネジャーと関係機関の連携を支援する。</p> <p>○地域ケア個別会議から、個別の課題のみならず地域課題（医療との連携、生活支援体制整備、ケアマネ支援等）を抽出し、自立支援・重度化防止を目指したプランの作成を支援する。</p> <p>○地域の主任ケアマネジャーと連携協働を図り、ケアマネ支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケアマネジャー向け研修・事例検討会を年5回開催する。 ・ うち1回は地域の主任ケアマネジャー向け研修及び情報交換会とする。 	
結果	ケアマネジャー向け研修 ○回（前年度 ○回）	事例検討会 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の取組の方向性		

4 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

5年度の取組の視点	<p>○居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対し、ケアマネ支援や研修等により、介護予防ガイドラインの徹底を図る。</p> <p>○介護予防プランでは、適切なアセスメントを実施し、利用者が大切に生きてきたこれまでの暮らしを再び送れるよう目標を設定する。利用者のセルフマネジメントを推進し、介護予防サービスのみならず、地域資源等多様なサービスを活用した自立支援型プランを作成する。</p>	
結果	プラン件数（自己作成） ○件（前年度 ○件）	プラン件数（委託） ○件（前年度 ○件）
次年度以降の取組の方向性		

5 認知症支援

5年度の取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症の人とその家族等が、できる限り住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう、また認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、「予防」と「共生」を視点とした事業を進める。 ○住み慣れた地域で暮らせることができる仕組みづくりを促進する。 ○認知症の人やその家族に早期に関わり、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築とともに、認知症について正しい理解を持ち、適切な接し方ができるよう、認知症に関するネットワークの広がりを目指す。 ○地域の医療・介護・福祉関連機関等とのネットワークの構築と、対応力向上を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症普及啓発事業（一般）を年8回開催する。 ・認知症普及啓発事業（専門）を年3回開催する。 ・認知症家族介護者教室を年6回実施する。 ・認知症初期集中支援チーム事業に関連した取組を行う。（チーム支援3件、訪問10件） 	
結果	認知症サポーター数 ○人（前年度 ○人）	家族介護者教室 ○回（前年度 ○回）
次年度以降の取組の方向性		

6 地域ケア会議

5年度の取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ケア個別会議において、ケアマネジメントの質の向上を図るとともに、個別課題から地域課題を抽出する。年度末には課題整理表にまとめ、次年度の地域ケア推進会議につなげていく。 ○地域住民及び医療・介護・福祉等の関連機関に対して、うめわか圏域地域包括ケア計画の周知を図るとともに、地域ケア推進会議等において各推進事業の目標を共有し具体策の検討を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議を年6回開催する。 ・地域ケア推進会議を年5回開催する。 	
結果	地域ケア個別会議 ○回（前年度 ○回）	地域ケア推進会議 ○回（前年度 ○回）
次年度以降の取組の方向性		

7 生活支援体制整備事業

5年度の取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民や関連機関とともに、生活支援に必要な社会資源の情報収集及び可視化をする。地域資源リーフレットの作成や更新を行う。 ○商店との顔の見える関係づくりを強化し、高齢者の生活支援ネットワークを充実させる。配達の有無、見守り機能等の情報収集をする。 ○買い物ニーズのある地域に対して、様々なサービス提供主体（移動販売や配達等）とのマッチングに取り組む。また、移動販売の立ち寄り拠点を増やし、地域での緩やかな見守りや交流の場につなげる。 ○地域における担い手等を発掘し、ボランティアグループの立ち上げ支援や互助活動につなげる。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	○通いの場の立ち上げ支援を行う。	
結果	交流・通いの場 ○件（前年度 ○件）	
次年度以降の取組の方向性		

8 見守りネットワーク事業

5年度の取組の視点	<p>○みまもりだより配布時には町会、自治会、老人クラブ、民生委員・児童委員、店舗等のあらゆる関係機関に対し、地域住民について情報の共有を図り、ネットワーク構築をする。</p> <p>○上記の取組等で得た情報や区内区外転居の情報を元に、地域で孤立が心配される高齢者や重層的な課題を抱えている可能性が高い世帯等を中心に実態把握を実施し、適切な支援や社会資源につなげる。</p>	
結果	実態把握 ○件（前年度 ○件）	安否確認 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の取組の方向性		

<圏域別地域包括ケア計画の取組>

※事業ごとに記載している施策の方向性の数字は、以下を示している。

- | | |
|-------------------------------|--------------|
| 1 … 見守り、配食、買い物など、多様な日常生活の充実 | 2 … 介護予防の推進 |
| 3 … 介護サービスの充実 | 4 … 医療との連携強化 |
| 5 … 高齢者になっても住み続けることのできる住まいの確保 | |

事業名 ちょこっとサービス応援団		施策の方向性：1, 2
背景となる課題	<p>○高齢者を含む世帯の内、高齢者のみの世帯（ひとり暮らし及び高齢夫婦等高齢者のみ）が7割と多い。</p> <p>○外出同行、見守り、声掛けを必要とする人が多い。</p> <p>○鉄道やバスの利用が不便で、買い物や外出しづらい地域がある。</p> <p>○認知症や移動に支援が必要などの理由から、通いの場に参加できない人がいる。</p> <p>○スーパーなどの閉店により、買い物ができる場が減っている地域がある。一方で地域の商店、住人、ボランティアの取組によって、買い物や交流できる新たな地域資源が創出した。</p> <p>○見守りについて、組織化されている地域・集合住宅がある。</p>	
事業内容	<p>○地域の見守り活動や住民同士の支え合い（ちょこっとサービス）について情報収集を行い、それらの活動を可視化する。</p> <p>○地域にある商店等の生活支援に関わる便利情報をマッピングし、リーフレットを作成する。</p>	

4年度事業実績 (アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム) R5.1.31 日段階		<p>○リーフレット作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ちょこっとサービス応援団」として、地域住民、見守り協力員、民生委員・児童委員、医療・介護・福祉関連機関等が参加。地域ケア推進会議 1 回、ミーティング 5 回開催、延べ 68 名参加、実人数 22 名。 ・参加者が主体となり「食」に関するリーフレットを作成中、年度末には完成予定。 <p>○ボランティアの普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民向けイベント「梅若まつり」(シルバープラザ梅若主催)の中で、うめわかクラブと裁縫ボランティアの活動を展示、121 名来場。 ・「梅若まつり」の体力測定会にて、「興味・関心チェックシート(アレンジ版)」を実施。3 名が「ボランティア活動をしている」、2 名が「興味がある」と回答。 ・裁縫ボランティアは、新たに 9 名が加入。 ・裁縫ボランティアの中から、自主グループ「手芸クラブ」の立ち上げを支援。 ・うめわかクラブの後方支援。開催後の振り返りの会に職員も同席。 ・東白鬚公園主催のイベントへのボランティア参加を地域に働きかけた。「むかしあそび体験」ボランティア 13 名、「クリスマスイベント」ボランティア 11 名参加。
5年度 の 取 り 組 み の 指 標 と 方 向 性	投入資源 (人・場所 等必要な資 源)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者支援総合センター(以下「センター」という)職員 3 名、高齢者みまもり相談室(以下「相談室」という)職員 1 名 ・地域住民、見守り協力員、民生委員・児童委員、医療・介護・福祉関連機関等 ・集う場所、普及啓発イベント会場…シルバープラザ梅若 ゆうゆう館、公園、河川敷等 ・チラシなどの印刷費、イベント参加の記念品、講師謝礼等
	5年度活 動計 画 (アウトプ ットの目 標)	<ol style="list-style-type: none"> ① 「食」に関するリーフレットが完成し、配布(500部) ② 地域住民や関連機関とともに、ちょこっとサービス応援団ミーティングを5回以上開催する。 ③ 地域住民向けイベント時にボランティアの普及啓発及びボランティア希望者の把握を行う。すでに活躍しているボランティアや新規のボランティア希望者の数が増えている。
	成果(ア ウトカ ム)を 測る指 標及 び目 標	<p>【目標①】「食」に関するリーフレットが生活便利情報として活用されている。</p> <p>【指標】・リーフレットの配布数、認知度、活用方法</p> <p>【目標②】ちょこっとサービス応援団の団員が、地域の担い手として活躍できる。</p> <p>【指標】・ミーティングの開催回数、参加人数、参加者の多様性(様々な属性の人の参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートやヒアリングを行い、生きがいや役割を持つことにつながっているかを確認する。 <p>【目標③】ボランティアをしている人やボランティア希望者が増え、生きがいにつながっている。</p> <p>【指標】・ボランティア活動に参加している人数、ボランティアの活動内容。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアにアンケートやヒアリングを実施、生きがいや効果などを確認する。
実 施 結 果	活動の実績 (アウトプ ット)	
	成果(ア ウトカ ム目 標)	

	の達成状況)	
--	--------	--

事業名 ストップ!フレイル		施策の方向性：2
背景となる課題	<ul style="list-style-type: none"> ○自主グループなどの通いの場に偏りがある。歩いて行ける範囲で、通いの場が必要である。 ○通いの場のうち「話す場」が少ない。 ○栄養に課題のある高齢者がいる（低栄養、栄養の偏り等）。 ○プチデイサービス卒業後の受け皿として、適した運動強度の場が必要である。 ○すでに活躍している介護予防リーダー、介護予防サポーターが自主グループを複数担当しており、負担が大きくなっているため、新しい担い手が必要である。 ○男性は地域との交流が少ない傾向にある。 ○新しく墨田区総合運動場（堤通2丁目）ができた。 ○イスからつながるプロジェクトにより、地域に誰でも座れるイスが増え、活用されている。 	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍における地域高齢者の健康状態や生活状況を把握し、課題を抽出する。地域ごとの特性を踏まえ、地域分析を行う。 ○一般介護予防事業の周知を図り、参加を促す。 ○ウォーキングマップ「イスをめぐって歩こうマップ」（うめわかセンター作成）を活用し、日常生活の中での介護予防の動機づけになるよう普及啓発を行う。 ○地域住民向けに、フレイル予防（栄養、口腔ケア等）の普及啓発を行う。（講演会年1回） ○新しい生活様式に即した地域の通いの場の立ち上げ・継続支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 通いの場が少ない地域のニーズを把握し、運動の場の立ち上げ支援を行う。（1か所） 屋外で運動する自主グループの立ち上げ支援を行う。（1か所） 既存の自主グループの継続支援を行う。（自主グループ交流会を年1回開催する） 	
4年度事業実績 （アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム） R5.1.31日段階	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民向けイベントでの普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の事業について、自主グループなどに周知を行った結果、3か所の自主グループなどから希望があり、フレイル予防（栄養と口腔ケア）について普及啓発を行った。 ・ 「東白鬚公園歩いて健康史跡めぐり」（東京都公園協会主催・5月開催）にリハビリ専門職とともに協力した。20名参加（内男性15名）、内16名が「また参加したい」と回答、「墨田区の歴史をもっと勉強していきたいのでまた史跡めぐりを企画してほしい」などの声も多く、男性の交流の良い機会となった。 ・ 地域住民向けイベント「梅若まつり」（シルバープラザ梅若主催・10月開催）でリハビリ専門職による「腰痛膝痛予防体操と元気になる話」を実施、フレイル予防について普及啓発を行った。25名参加。満足度アンケートでは、「とてもよかった」「まあよかった」15名（アンケート回答者中100%）、満足度が高かった。また展示にて自主グループとボランティアの情報提供を行った。 ○自主グループの支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主グループ交流会を開催した。（11月開催、15グループの担い手17名参加、4年連続 	

	<p>4 回目の開催)</p> <p>事前アンケートにて、自主グループの活動を行うことで、できなかった運動ができるようになった、明るくなったと感じている人は20%、物忘れが減ったと感じている人は15%（複数回答）であり、グループ活動が、主観的ではあるが、担い手のフレイル予防につながっていることが分かった。</p> <p>終了後のアンケートでは、17 名中 16 名が「参加してよかった」と回答、満足度 94%と高かった。</p> <p>【事例】 昨年度立ち上がり、運営に悩んでいた自主グループが、今年度立ち上がったグループの相談にのるなど、グループ同士の横のつながり、相互に支え合う関係ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな通いの場立ち上げ支援 1 か所実施した。（ハッピー北公園）またそれぞれの自主グループの実情に合わせて、活動の継続支援、再開支援を実施した。 ・ 自主グループ立ち上げを目的に、ウォーキングイベント「荒川河川敷歩こう会」を3回シリーズで開催。11月10名、12月11名、1月8名参加。終了後アンケートを実施、参加者は全員自主化に賛成の意向があり、ヒアリングでもウォーキングの継続に意欲的だった。今後自主化予定。 ・ ハッピー北公園・荒川河川敷歩こう会については、自主グループ活動の効果を継続的に見ていくため、3月に体力測定会を実施し、以後も定期的に体力測定を実施していく予定である。 ・ 運動の場リーフレットを10月改訂、300部発行。自主グループへアンケート（15グループ）では、「リーフレットを見て参加した人がいる」との回答が2グループあった。 	
5年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性	<p>投入資源 （人・場所 等必要な資 源）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ センター職員3名、相談室職員1名 ・ 地域住民、自主グループの担い手、医療・介護・福祉関連機関等 ・ 集う場所、普及啓発イベント会場…シルバープラザ梅若 ゆうゆう館、公園、河川敷等 ・ チラシなどの印刷費、イベント参加の記念品、講師謝礼等
	<p>5年度活 動計 画 （アウトプ ットの目標）</p>	<p>① 自主グループ支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主グループ交流会を開催する。（1回） ・ 通いの場の新規立ち上げ及び継続支援を行う。 ・ 運動の場リーフレットを更新し、配布（500部）。フレイル予防の普及啓発のツールとして活用する。 <p>② 男性の居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すでにある男性の通いの場の情報を収集し、可視化する。 ・ 男性が参加しやすい通いの場をリサーチし、フレイル予防普及啓発のイベントを実施する。（1回） <p>③ 地域住民向けイベントを実施し、フレイル予防の普及啓発を行う。（1回）</p>
	<p>成果（アウトカム）を測る指標及び目標</p>	<p>【目標①】 新しい通いの場が増える。既存の自主グループにおいては、それぞれの形で活動が継続できる。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主グループ交流会の参加グループ数、参加人数、内容 ・ アンケートを実施し、自主グループの活動が生きがいや役割を持つことにつながっているか、満足度などを確認する。 ・ 通いの場の総数と新規立ち上げた自主グループの数、活動内容

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動の場リーフレットの配布数、配布場所、認知度、活用状況の確認 <p>【目標②】 男性の交流の機会や居場所が増える。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男性中心の自主グループ数、活動内容 ・ 男性中心のフレイル予防普及啓発イベントの回数、参加人数、イベント内容、アンケート結果（満足度等） <p>【目標③】 フレイル予防について関心のある住民が増える。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民向けフレイル予防普及啓発イベントの開催数、参加人数、アンケートの結果
実施結果	活動の実績（アウトプット）	
	成果（アウトカム目標の達成状況）	

事業名 Nプロジェクト～認知症を認知しよう～		施策の方向性：1, 2, 3, 4
背景となる課題	<p>○認知症高齢者数が区内で最も多く、また増加率が高い。</p> <p>○居宅介護支援事業所の移転、閉鎖等で事業所数が減少している。</p> <p>○Nプロジェクトやイスからつながるプロジェクト等を通じて、地域連携や医療と介護の連携、事業所同士の交流が進んでいる。</p>	
事業内容	<p>○認知症の人や家族の居場所づくりや地域で安心して暮らすためのネットワークづくりをするため、地域住民や医療・介護・福祉関連機関が参加するNプロミーティングを毎月開催する。</p> <p>○地域住民向けの普及啓発事業の企画運営をする。（普及啓発イベント1回）</p> <p>○医療・介護・福祉職への研修を実施しスキルアップを図る。（研修1回）</p>	
4年度事業実績（アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム） R5.1.31日段階	<p>○ネットワークづくりのためのNプロミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Nプロ定期ミーティング9回開催、延46名参加。 ・ 各回平均5事業所の参加、実参加事業所15カ所。 ・ 参加事業所は、居宅介護事業所が多く、通所介護事業所や訪問介護事業所の参加も見られた。 <p>○地域住民向けの普及啓発事業の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Nプロミーティングにて、認知症当事者や家族等の不安の解消や早期発見、治療につなげるために「ものわすれ相談会」の実施を検討し、7月と1月に実施した。両会とも募集人数枠を満たし、全9組の当事者や家族へ対応を行った。専門職による助言を行うことで、会の目的を果たすと共に、地域の生の声を聞く機会につながった。アンケート結果（11名回答）では、11名が「とても良かった」「良かった」と回答、満足度が高かった。 ・ Nプロメンバーから「高齢者の耳の聞こえが認知症進行に直結する」「高齢者の補聴器の悩み 	

	<p>は多い」「専門職としても補聴器の事を詳しく分からない」と意見が出された。そのため、地域住民向け普及啓発事業、また医療・介護・福祉職への研修の一環として、メンバー内の言語聴覚士に講師を依頼し、補聴器も展示した「耳のきこえ」講演会を行った。20名定員に対し、20名（内、専門職3名）の参加があり、認知症と難聴の関連や補聴器の選定、区の補助事業などを盛り込んだ講義と実際の補聴器の展示や相談コーナーを設けた。アンケート結果（18名回答）では、17名が「とても良かった」「良かった」と回答、また8割が「とても理解できた」「理解できた」との回答で、満足度、理解度は高かった。</p> <p>○医療・介護・福祉職のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「耳のきこえ」講演会に専門職3名が参加した。 ・Nプロメンバーで、ものわすれ相談会の対応をした専門職9名（介護支援専門員、看護師、介護福祉士、言語聴覚士等）については、面接技術向上の機会につながった。
<p>5年度の取り組みの指標と方向性</p>	<p>投入資源（人・場所等必要な資源）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター職員3名、相談室職員1名 ・地域住民、医療・介護・福祉関連機関等 ・定期ミーティング場所、普及啓発イベント会場…シルバープラザ梅若ゆうゆう館 等 ・チラシなどの印刷費 等
	<p>5年度活動計画（アウトプットの目標）</p> <p>①「認知症になっても安心して暮らせるまち」づくりの促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や医療・介護・福祉関連機関が参加する地域ケア推進会議（Nプロ全体会）を開催する。年2回。必要があれば、コアメンバー会議の開催も検討する。 ・地域での困りごとや理想など「我が事」としての視点に基づき、意見交換、集約を行う。 <p>②Nプロ定期ミーティングの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15か所以上の医療・介護・福祉関連機関から、当事業の取組に理解、協力を得る。 ・定期ミーティングを毎月1回程度行い、意見交換や検討の機会を持つ。事業の準備等ミーティングが必要な場合には臨時会等調整する。 ・Nプロ全体会で集約した意見に基づき、イベントや講座、勉強会の企画、リーフレット作成等、地域ニーズに基づいた取組を検討する。
	<p>成果（アウトカム）を測る指標及び目標</p> <p>【目標①】「認知症になっても安心して暮らせるまち」づくりの促進において、地域住民や医療・介護・福祉関連機関が集うことで、顔の見える関係づくりにつなげ、地域とのネットワークが広がる。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数、参加人数、参加者のネットワークの広がり（様々な属性の人が参加したか） ・地域住民等と共有した意見が、新しい取組につながり、具体的な取組が1つ以上実現する。 <p>【目標②】Nプロ定期ミーティングを実施し、医療・介護・福祉関連機関等のネットワークづくりやスキルアップを図る。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力事業所数、ミーティング回数、参加者数、参加者へのヒアリング ・全体会で出された意見等を検討し、地域ニーズに基づいた取組が1つ以上実施できる。

実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果(アウトカム目標の達成状況)	

事業名 人生会議～もしものための話し合いをしよう～		施策の方向性：4
背景となる課題	令和元年度の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査によると、 ○人生の最終段階について話し合っていない人が多い。 ○高血圧、糖尿病、脳卒中等に罹患している人が多い。	
事業内容	○地域住民向けに「終活」「人生会議」の講座を行う。(年1回) ○地域の集いの場や医療・介護・福祉関連機関等に対し、救急医療情報キットの周知活動を行う。(年6回) ○医療・介護・福祉の多職種が参加する在宅医療に関する情報交換会・事例検討会を開催する。(年1回)	
4年度事業実績 (アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム) R5.1.31日段階	<p>○地域住民向け講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしの思い手帳勉強会」(9月開催)では、民生委員・児童委員、見守り協力員、医療・介護・福祉専門職等 11名参加。アンケートでは、「とても理解できた」「理解できた」が計100%、また「今後参加者自身が伝達(研修講師)できると思うかとの質問については、「自分で伝えることができる」「今回参加した人と一緒なら伝えることができる」が計91%であった。今後は小グループでの勉強会や通いの場等で研修講師になることを働きかける予定。 ・「エンディングノート講習会」(9月開催)では、地域住民15名参加。エンディングノート作成について「とても理解できた」「理解できた」が計94%、「作成をしてみたいと思うか」は100%であった。 <p>○救急医療情報キットの普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ研修3回、自治会1回、自主グループ1回、イベント(エンディングノート講習会)1回で救急医療情報キットのミニ講座を行った。他、実態把握調査、総合相談、担当者会議等含め、81個配布。総合相談やケアマネジメントで作成したケースでは、「在宅生活に安心が得られた」との回答があった。 <p>○在宅療養や人生会議に関するケアマネジャー研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養に関するケアマネ研修を12月開催、8名参加。アンケートでは、在宅療養について「大変理解が深まった」「理解が深まった」100%、本人の意思決定支援を行いながら在宅療養支援ができるかは「しっかり行える」「行える」100%、医療機関との連携について「十分連携できる」「連携できる」100%の回答だった。 	

5年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性	投入資源 (人・場所 等必要な資 源)	<ul style="list-style-type: none"> ・ センター職員3名、相談室職員1名 ・ 地域住民、地域団体、自主グループ、医療・介護・福祉関連機関等 ・ シルバープラザ梅若 ゆうゆう館(会議室、ホール等) ・ 推進会議、ミーティング、勉強会、講座等に係る備品や消耗品費
	5年度活 動計 画 (アウトプ ットの目 標)	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域住民向け(通いの場等)「わたしの思い手帳」の講習会を実施する。(年2回) ② 「人生会議」をテーマに専門職向け研修を行う。(年1回) ③ 在宅医療に関する研修もしくは事例検討会を行う。(年1回) ④ 通いの場及び医療・介護・福祉関連機関等(5か所)で救急医療キット周知活動をし、配布する。
	成果(アウ トカム)を 測る指 標 及び目 標	<p>【目標①】 人生の最終段階について話し合っている人が増えている。</p> <p>【指標】 ・ 講習会の回数、参加者数、終了後アンケートで周知度、理解度を確認する。 ・ 参加者に、人生の最終段階について話し合った事例を確認する。</p> <p>【目標②】 専門職向け研修会を行うことで、専門職が地域住民に人生会議について説明できるようになる。</p> <p>【指標】 ・ 研修の回数、参加者数、終了後アンケートで理解度を確認する。 ・ 人生会議について、担当者会議等で利用者に説明した事例を確認する。</p> <p>【目標③】 専門職の在宅療養に関する理解が深まり、ネットワークが拡充している。</p> <p>【指標】 ・ 研修・事例検討会の回数、参加者数、終了後アンケートで理解度、ネットワークの広がりを確認する。 ・ 在宅療養について、医療との連携等の事例を確認する。</p> <p>【目標④】 救急医療情報キットの活用が進むことで、万が一に備えて自身の救急情報シートを備えている人が増える。</p> <p>【指標】 ・ 救急医療情報キットの普及啓発の回数、配布数、活用状況や事例をヒアリングする。</p>
実 施 結 果	活動の実績 (アウトプ ット)	
	成果(アウ トカム目 標の達成 状況)	

事業名 いのちを守るネットワーク事業		施策の方向性：1, 2, 5
背景となる課題	<ul style="list-style-type: none"> ○住居の老朽化のため、住宅改修や福祉用具の利用が難しい場合がある。 ○高齢者(特に身寄りのない独居高齢者)の転居の場合、物件を探したり、手続きをすることが難しい場合がある。 ○「地震時などに著しく危険な密集市街地」に該当する地域が多く、また水害による被害率も高い。 	

	<p>○令和元年度の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、災害時や火災などの緊急時に一人で避難できる人は64%である。</p> <p>○避難訓練には、災害時に地域の担い手になれる世代の参加者が少ない。</p>
事業内容	<p>○町会・自治会などの自主防災組織、民生委員・児童委員、消防署、また住まいにかかわる関連機関などの参加による住まい・防災に関する地域ケア推進会議を開催する。</p> <p>○住まい・防災チェックシートを活用し、高齢期になっても安心して住み続けられるように、住宅改修・救急通報システム・家具転倒防止・ガラス飛散防止フィルム・火災報知器・耐震工事などの周知活動を行い、安心安全な住まいへの意識を高める。</p> <p>○住民向け講演会を年1回開催する。</p> <p>○医療・介護・福祉専門職や事業所に対して、地域の防災訓練への参加を促し、地域と関係機関のネットワーク強化を図る。</p> <p>○「防災遠足」の開催について後方支援を行う。</p>
4年度事業実績 (アウトプット及び 現時点で判明し ているアウトカム) R5.1.31日段階	<p>○不動産業者を対象とした、「高齢者の住まいに関するアンケート」(6月実施、7社に配布し6社より回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質問①「高齢者に住宅を提供することのリスクとそれを回避するために必要と思われること」について、孤独死、認知症等による意思能力の喪失、経済的な問題による家賃滞納、保証人がいないといったリスクがあるとしており、リスクの回避については、賃料持参のための月1回直接来所してもらい、入居時の火災保険(死亡時保証付き)加入等が挙げられた。質問②「高齢入居者の見守りに関するネットワーク構築の必要性」については、6名全員が必要と回答、ネットワークで関係性を築きたい機関としては、介護事業所、区役所、センター・相談室、民生委員・児童委員、医療機関等が挙げられた。アンケートにより、不動産業者の高齢者の住まいに関しての意識や課題と感じている点について確認することができた。 <p>○住まいに関する地域ケア推進会議(9月開催、10名参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の住まいに関わる関連機関(不動産業者、民生委員・児童委員、居宅介護支援事業所、墨田区住宅課)が参加。「高齢者の住まいに関するアンケート」報告及び『孤立死』をテーマにグループワークを行った。会議後アンケート(10名中9名が回答)では、①会議に参加して「とてもよかった」「よかった」が9名、②会議に参加して新しい情報が「大いに得られた」「得られた」が9名、③今回のような会議が高齢者の住まいの問題に関するネットワーク構築につながるかについては「つながると思う」「どちらかというつながると思う」が8名、④ネットワーク構築のために何が必要かについては「集まる機会が必要」「住宅・福祉・不動産・介護等各業界の課題や解決策を共有し合うことで新たな方策が生まれるかも知れない」といった意見聞かれた。顔の見える関係づくり及びネットワーク構築、地域における高齢者の住まいに関する現状の共有及び課題の抽出につながった。 <p>○「防災遠足」(すみだの巣づくりプロジェクト主催・9月開催)後方支援。参加者60名。</p> <p>○住民向けの防災(水害、マイタイムライン)に関する講演会の実施。(1月開催、14名参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「災害に備えよう!作ろう!マイタイムライン」と題し、墨田区防災課による講義とマイタイムラインの作成を行った。「住まい・防災チェックシート」を用いて、区の施策(家具転倒防止・ガラス飛

	<p>散防止フィルム等)の周知をした。アンケートでは「とてもよかった」「よかった」100%の回答を得た。また「とても参考になった」「普段からの準備が大事ということが判った」との意見があった。</p> <p>○防災に関する地域ケア推進会議(1月開催、18名参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町会・自治会8名、医療機関1名、介護・福祉関連機関5名、墨田区防災課等参加。各町会による防災についての取り組みの発表やグループワークを実施した。アンケート(18名中12名回答)では、①会議は今後の防災活動・対策に役立つと思うか「とても役に立つ」「役に立つ」が11名、②会議が災害時・平時のネットワークづくりにつながるかについて「とてもそう思う」「思う」が9名、③町会・自治会の実情を理解することができたか「よくできた」「できた」が9名だった。また今後防災に関して話し合いたいテーマについては、町会・自治会からは「各町会のつながり」「近隣の町会の具体的な活動」があげられた。事業所からは、「町会主催の防災訓練に積極的に参加したい」「防災訓練を利用者とともに行いたい」との意見が出た。地域団体と医療・介護・福祉関連機関とのネットワーク強化と顔の見える関係構築につながった。
5年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性	<p>投入資源 (人・場所 等必要な資 源)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ センター職員5名、相談室職員1名 ・ 地域住民、町会・自治会、医療・介護・福祉関連機関、住まいに関わる関連機関、「すみだの巣づくりプロジェクト(防災遠足)」等 ・ シルバープラザ梅若等 <p>5年度活 動計 画 (アウトプ ットの目標)</p> <p>① 防災に関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民向けに住まいや防災に関する講演会や周知を行う。(年1回以上) ・ 「住まい・防災チェックシート」(センター作成)の実施。(随時) ・ 防災に関する地域ケア推進会議を開催する。(年1回) ・ 地域の防災訓練に医療・介護・福祉専門職が参加するよう働きかけ、地域と関係機関のネットワーク強化を図る。(随時) ・ 防災遠足の後方支援をする。(開催は年1回)避難経路の確認や防災に関する認識が深まったか、アンケートを実施するよう主催者(すみだの巣づくりプロジェクト)に働きかける。 <p>② 住まいに関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住まいに関する地域ケア推進会議を開催する。(年1回) ・ 不動産事業者や貸主に対して、高齢者の住まいに関する課題についてアンケートやヒアリングを行う。(年1回)
成果(アウ トカム)を 測る指標 及び目標	<p>【目標①】 自助力・互助力が向上するとともに、地域団体や医療・介護・福祉関連機関、防災関係者等のネットワーク構築が進み、高齢者の防災に関する課題が共有されている。災害時及び平時のネットワーク構築につながっている。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災に関する講演会や周知の回数、参加者数、講演会内容。終了後アンケートを行い、防災への理解度を確認する。 ・ 「住まい・防災チェックシート」の実施数 ・ 防災に関する地域ケア会議の回数、参加者数、ネットワークの広がり(様々な属性の人が参加したか)、会議内容。終了後アンケートを行い、課題の共有ができたか、ネットワークがひろがったか確認する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の防災訓練に参加した医療・介護・福祉専門職及び防災訓練主催者へのヒアリングを行う。 ・ 防災遠足参加者数、アンケートで防災意識について確認する。 <p>【目標②】 住まいに関する事業者及び医療・介護・福祉関連機関等のネットワーク構築が進み、高齢者の住まいに関する課題が共有されている。</p> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住まいに関する地域ケア会議の回数、参加者数、ネットワークの広がり（様々な属性の人が参加したか）、会議内容。終了後アンケートを行い、課題の共有ができたか、ネットワークが広がったか確認する。 ・ 住まいに関するアンケートの集計報告 ・ 住まいに関する事業者と医療・介護・福祉関連機関の連携事例報告
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果（アウトカム目標の達成状況）	